

# 小平市における情報教育の推進状況について

栗林 昭彦（小平市教育委員会 指導主事）

## 1 はじめに ～ 小平市の教育改革について

### （１）「21☆こだいらの教育改革アクションプラン」について

小平市では、「これからの教育には、家庭・学校・地域社会が一体となり、地域をあげて子どもの成長を見守り、地域社会の責任において支援していくことが求められている」という考えから、「地域で育てよう、すこやかな子ども」のスローガンのもと、教育改革を進めてきた。これを具現化するために、平成13年に「21☆こだいらの教育改革アクションプラン」を策定し、教育改革を進めていくための行動の指針を示した。

このアクションプランは、学校教育においては「開かれた特色ある教育活動の推進」、社会教育においては「世代を越えたコミュニティづくりの推進」を柱としており、家庭・学校・地域社会の協働により子どもたちのすこやかな教育を進めていくために14項目をあげたものである。これらアクションプランの具現化を目指した取組を進め、小平市の教育改革は着実に成果をあげてきている。

### （２）「アクションプラン」の具体化に向けて

平成13年のアクションプラン策定を受けて、市内の各学校においてさまざまな教育活動が展開された。市内の多くの地域において、子どもも、大人も、高齢者も、障害のある方も一緒になって地域社会を巻き込んだ、有意義で実感のもてる楽しい体験学習や、教科学習においては学生や社会人等の学校支援ボランティアの導入による「わかる授業・楽しい授業」の実践が展開されている。

このような状況を踏まえ、平成16年4月にアクションプランをさらに具体的なスケジュールに則った行動計画とするための研究部会が立ち上げられた。これまでの「学校教育」「社会教育」という枠組を見直し、「家庭」、「学校」、「地域」の教育力向上のプログラム策定のため、新たに12の部会を設け、それぞれの部会においてテーマに関する研究を進め、その研究結果を受けて本市の教育改革を具体化していこうというものである。（下表）

## 21☆こだいらの教育改革アクションプランの具体化に向けて

### 地域で育てよう すこやかな子ども

#### 【施策の視点】

- ◎ 標記の基本理念に基づき、地域全体で子どもの教育を行う。
- ◎ 家庭・学校・地域の各領域の教育力の向上及び互いの連携の強化を図る。
- ◎ 家庭・学校・地域の教育力の向上及び連携により子どもの〔生きる力〕の育成を図る。
- ◎ 「学校教育」「家庭教育」といった従来の枠組にとらわれずに、新たな枠組による政策を進める。

このような趣旨に基づいて編成された12のアクションプログラム開発研究部会が、以下に示すものである。

**「家庭」「学校」「地域」の教育力の向上  
12のアクションプログラム研究部会**

	<b>家庭の教育力向上☆こだいらプログラム研究部会</b>
<b>家 庭</b>	<b>【趣 旨】</b> 家庭教育の支援、保護者の研修の機会の増大 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 〔1〕 家庭教育支援情報の提供 〔2〕 家庭教育支援研修会の開催（家庭教育講座） 〔3〕 親子協働体験活動の実施 （ホットHOTこだいらファミリーデイ、「友・遊」土曜子ども広場等） 〔4〕 家庭教育支援ネットワークの構築（幼稚園・保育園・小学校の連携）
	<b>学校の教育力向上☆こだいらプログラム研究部会</b>
<b>学 校</b>	<b>【趣 旨】</b> 〔生きる力〕育成カリキュラムの開発 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 〔5〕 確かな学力の定着 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的及び発展的な学習の充実</li> <li>・ 読書活動の推進</li> <li>・ 情報教育の推進</li> <li>・ 環境教育の推進</li> <li>・ 国際理解教育の推進</li> </ul> 〔6〕 豊かな人間性の育成（社会貢献活動推進ネットワーク） 〔7〕 健康・安全の確保（健康教育、食教育、防犯・安全教育） 〔8〕 特別支援教育の推進（軽度知的障害・軽度発達障害の児童・生徒の指導）
	<b>地域の教育力向上☆こだいらプログラム研究部会</b>
<b>地 域</b>	<b>【趣 旨】</b> 地域の教育力（市民、大学生、関係機関等）の開発 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 〔9〕 学校支援ボランティアの組織作り（教育サポートネット） （スクールボランティアネットワーク） 〔10〕 児童・生徒の健全教育 （スクーリングサポートネットワーク）（サポートチーム） 〔11〕 児童・生徒の居場所づくり（地域子ども教室）（地域スポーツ） 〔12〕 地域運営学校の研究(学校運営協議会)



**子どもの[生きる力]の育成**

**2 小平市における情報教育の推進の状況**

（1）情報教育の推進体制について

ア 教育課題研究アクションプログラム開発研究について

小平市では、情報教育の推進をこの「アクションプログラム」における「確かな学力」定着のための要素と位置付け研究を進めることとした。具体的には市内27校の小・中学校の校長1名、教頭3名、主幹・教諭6名の計10名が、情報教育の推進に向けて、①情報機器を活用した学習指導の内容・時間、②情報機器の維持・管理、③情報の管理・セキュリティ、④子どもたちを取り巻く情報環境への対応当についての研究を進めた。

#### イ 情報教育推進委員会の活動について

本市においては、情報教育の推進のために各学校から1名の情報教育推進委員の推薦を受け、任命をしている。これらの委員は、それぞれの学校における情報教育推進の役割を担っている。年間4回の情報教育推進委員会では、各学校における推進上の課題についての情報交換をはじめ、情報機器の操作上の問題点に対するFAQの作成、情報機器を活用した授業の事例収集、コンピュータの操作についての指導計画等、分科会ごとにテーマを設けた研究をし、各校の情報教育推進のための資質や能力の向上を図っている。

#### ウ その他

上記以外にも、小学校教科等研究部会に情報教育部会を設け、情報機器を用いた授業実践についての研究を進め、事例の収集を行っている。また、夏季休業日中にパソコン研修会を開催し、初級コース、中級コースに分かれた講座を開設し、機器の操作や情報機器を活用した授業の進め方等についての研修を行っている。

### (2) 小平市の情報教育推進上の課題

以上のような体制で情報教育を推進しているが、解決を図るべき課題として以下のような点が挙げられる。

#### ア 教師の意識改革について

コンピュータを活用した授業は増加しつつあるが、コンピュータの扱いの習熟や資料収集の目的に終始しがちであることや、授業に活用できそうなコンテンツについて知っている教員がまだ少ないことなどが課題となっている。また、教員間の意識や活用状況の差がなかなか埋まらない課題もある。

#### イ 校内体制について

情報機器の拡充は進んでいるが、維持・管理・保守等のための校内体制作りが進んでいない学校が多い。また、情報教育推進委員の年度ごとの引継ぎがされない現状がある。

#### ウ 家庭や社会における情報機器を取り巻く環境の変化に対応できる体制について

子どもたちを取り巻くインターネット環境の変化に、学校、教師、保護者とも対応しきれていない。また、この面についての指導がなかなか進んでいない現状がある。

### 3 地域連携デジタルコンテンツ活用コンソーシアム事業について

#### (1) 本市におけるデジタルコンテンツ活用コンソーシアム事業への取組

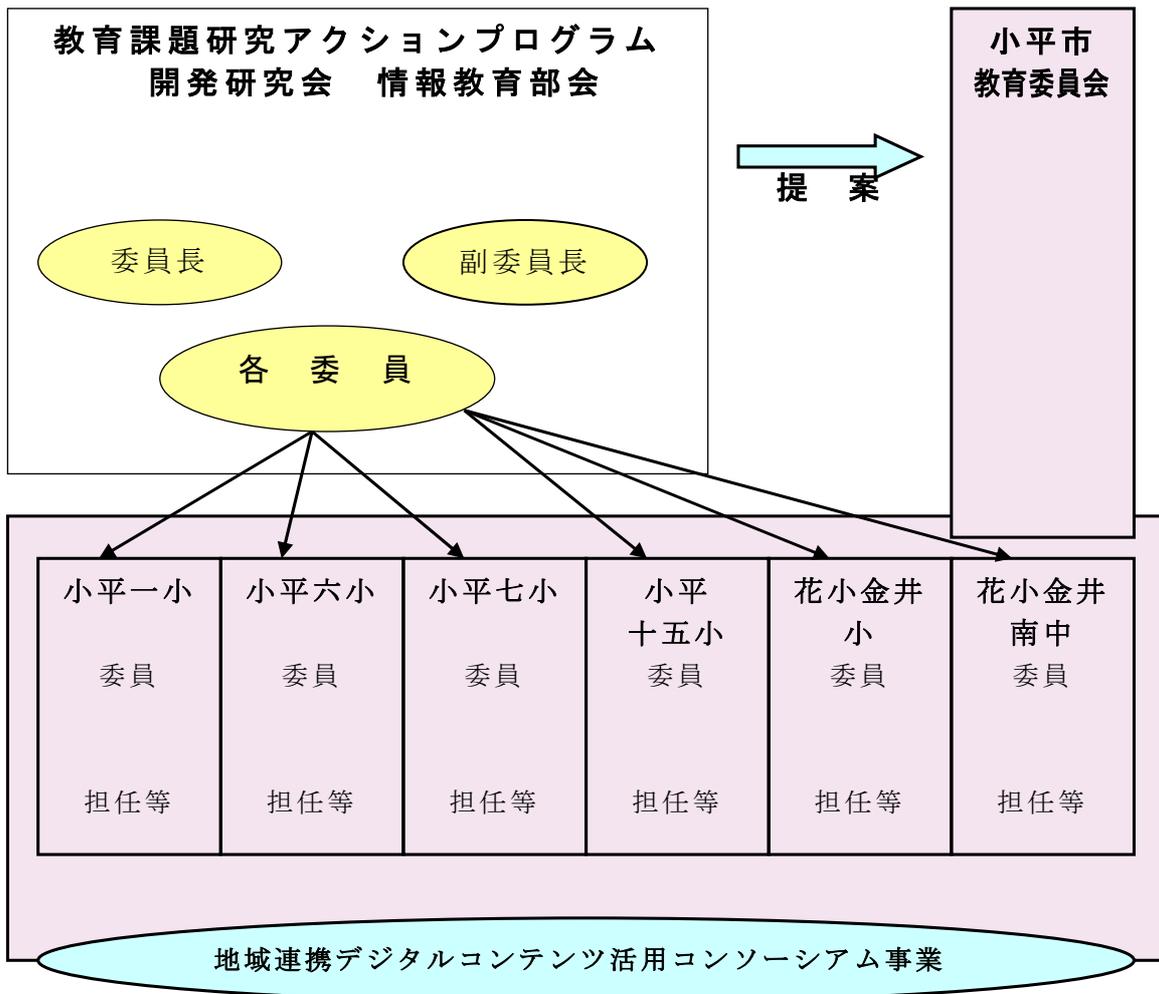
小平市では、この地域連携デジタルコンテンツ活用コンソーシアム事業に、以下の小学

校5校、中学校1校が参加している。

<b>参加校</b>		
○小平第一小学校	○小平第六小学校	○小平第七小学校
○小平第十五小学校	○花小金井小学校	○花小金井南中学校

これらの各学校では、前述の教育課題研究アクションプログラム開発研究情報教育部会に参加している教員が中心となり、校内の教員と協力して、複数の教科について、各校あたり10事例の提供を進めた。各学校では、教科についても可能な限り多様性をもたせること、情報教育に堪能な教員ばかりに授業が集中しない等の配慮をした。

### 小平市における地域連携デジタルコンテンツ活用コンソーシアム事業



授業の実施に当たっては、上図のアクションプログラム開発研究情報教育部会で検討や調整を行い、またその場に東京学芸大学の先生方を招いて指導を受けるなど、研究部員の研修を進めながら、効果的なコンテンツの活用をした授業を計画していった。

## (2) 各学校の授業の状況について

各学校における個々の授業の状況については、報告書を参照されたい。

本市においては、前述の教育課題研究アクションプログラム開発研究会情報教育部会の活動としてこのコンソーシアム事業を位置付けたため、いくつかの事例についてはアクションプログラム研究発表会において市内の教員に示された。本事業に参加していない学校には、デジタルコンテンツの多様な活用の実例や、意欲的に授業に参加する児童・生徒の様子は参考になるものであった。

コンテンツを活用した授業の効果を実際に経験した教員が、さらに積極的な授業改善に取り組み、当初予定した10事例を上まわり授業実践に取り組む学校も見られた。

また、3月2日(水)には、本事業で扱う授業の公開を小平第十五小学校、花小金井小学校の2校で同時に開催し、市内の教員、保護者等多数の参加をみた。花小金井小学校においては、授業公開に続き、研究協議会が開催され、同校でのコンテンツを活用した授業実践の事例や同校の教諭によるコンテンツ開発の事例等の紹介、本時の授業に関する意見交換等が行われた。後半は、東京学芸大学の加藤直樹助教授の講演、野呂芳明助教諭による指導が行われた。

このように、各学校で実施された授業によって、児童・生徒の授業への興味・関心が高められるなどの効果があげられただけでなく、小平市全体の情報教育の推進に資する授業が数多く行われた。

## 4 まとめ ～ 成果と課題

パソコン教室でなければ授業ができないということだけでなく、教室で、ノートパソコンと液晶プロジェクターだけで授業を進めることができるようなコンテンツの収集、授業の実施を心がけた結果、以下のような成果が見られた。

- ①授業を校内で公開したり、大勢の教員が授業を行うことで、情報教育に関する教師の興味・関心が高まり、底辺が広がった。
- ②ネット上にさまざまな教材や教育資料が公開されていることを知り、授業に活用するだけでなく、指導法の改善のヒントを得ることができた。
- ③大学との共同事業ということで、授業の記録や事業推進のための学生の派遣や教官との交流を進めることができた。開かれた学校づくりという点からも大きな成果であった。
- ④教育機器活用の今後の方向性について、有意義な情報を得ることができた。

そのほか、今回活用したコンテンツの工夫改善を進め、新たな教材を開発するきっかけとなったケースもあり、本授業に取り組んだ6校があげた成果は大変大きなものであった。

今後はさらにこの成果を広く市内全体で共有し、今回参加6校で展開されたようなデジタルコンテンツの有効な活用が日常的に図られるよう、情報提供や支援をしていきたい。

また、東京学芸大学が近隣にあるという地理的なメリットを生かし、本事業終了後も東京学芸大学との連携を進めながら、情報教育のいっそうの推進を図っていきたい。